

目次

1. 私は感じている魅力的な蔡正芸さん
2. インタビューで話したこと
 - 2-1 ベトナム事件
 - 2-2 蔡正芸さんにとって十年間の友情に一番印象的なこと
3. インタビューの結果わかったこと
4. 授業の振り返り

1. 私は感じていた魅力的な蔡正芸さん

私はインタビューしたいのは‘蔡正芸’という中学時代の大親友です。彼女は私にとってとても大切な友達です。彼女はすごく優しいし、きれいだし、音楽もとても上手だし、男性たちにとって彼女はとても気になる存在です。とにかく、彼女は非常に完璧な人です。もし私は男だったら、彼女のことが好きになっちゃうかもしれません。

彼女の初対面印象はせいせきがいい、静かな、優しい女の子でした。席は隣をきっかけにして、正芸さんとだんだん親しくなりました。彼女と親友になったあと、その初印象はほとんど変わりませんでした。正芸さんのせいせきはクラスでいつも五位以内になっていまして、彼女は頭が悪い私にいつも優しい指摘しました。本当にありがたいでした。そして、一緒にいたとき、正芸さんいつも聞き手の役になって、私はしゃべる人になっています。

正芸さんの母は創価学会という仏法団体のメンバーですから、彼女も創価学会に入りました。入会したあと、彼女はだんだん明るくなると思いました。だから今、私は聞き手の役になりました。

正芸さんと私一番違いのは彼女いつも冷静だし、理性的だし、そして独立できる人です。でも、私はいつも逸りやすいし、三日坊主だし、お天気屋さんです。私と比べると、彼女はまるで素敵な大人のようにです。しかし、私達の共通点は消極的だし、ペシミスティックです。この前、私達は夢について話し合っ、そして、私達は‘夢はかなわないかもしれない’というペシミスティックな結論は出来ました。

正芸さんは小学三年生のとき学校のオーケストラに入りました。その前、彼女はもうピ

アノとフルートができました。中学のとき、彼女の家に遊びに行き、正芸さんはいつもピアノやフルートを練習していました。その時、彼女の顔を見て、私はすごくうらやましいと思って、「いつか娘が生まれたとき、絶対に正芸さんみたいな人になってほしいなあ」と思いました。今もそう思います。

一番印象的なエピソードは台湾で‘MAYDAY’という人気ロックバンド、正芸さんは彼らのことが大好きなので、いつもコンサートとか、新曲発表会とか絶対に行きます。そして、彼女は自分の写真や彼と一緒に撮った写真のほかにリップクリームなどを手紙に貼り付けて、MAYDAYに送ったというかわいい部分もありますよ！

もう一つエピソードは中学の時、音楽の授業で音楽についてのショーをしなければならないので、私ともう一人友達と一緒にピアノを弾くことにしたから、だから正芸さんは私達にピアノを弾くことを教えてくれました。私とその友達がピアノを弾くことは初めてですから、だから練習の時いっぱい面白いことは出来ました。正芸さんのおかげで、その時のショーはとても素晴らしいでした。

正芸さんは今もう大学から卒業しました。彼女は社会学科なんですけど、いまの仕事は大学の論文の美術編集なんです。彼女の将来の夢は社会学科についての仕事ではなく、音楽家になることです。‘いつか絶対にオーケストラに入る’って、彼女はそう信じています。美術編集の仕事が終わったら、オーケストラへ進みます。

2. インタビューで話したこと

蔡正芸さんは台湾にいるので、今回のインタビューはウィンドーズ・メッセンジャーというシステムを使用し、さらに、インタビューのプロセスがもっと流暢に進められるためにウェブカメラとマイクで話し合う方式で行われました。

蔡正芸さんとインタビューの件で連絡した際、すでに彼女をインタビューの対象として選んだ理由を伝えたので、オープニングで私はテーマメモ1と2の内容について、彼女に言いました。

そして、「正芸さんは私の大親友だから、インタビューしたいんだ！！」と言い、「へえー、何についてインタビューしたいの？」と彼女は嫌な口ぶりで言いながらも、表情はすごくうれしいし、恥ずかしいし、そして感動していたと私はそう見えました。

2-1 ベトナム事件

正芸さんは夏休みのとき、ベトナムに行ってきたそうです。彼女はなぜベトナムを選んだのか、滞在中に何か面白いことはあったのか、そして旅を通して感じたことなど、彼女にたくさん質問しました。

正芸さんの専門は社会学ですが、社会問題に対して実はそんなに興味がなかったそうです。ベトナムに行って、その社会問題について実際に調査することが社会学にもっと興

味を持つようになるきっかけとなれたらいいと思って、ベトナムに行くことを決めたと彼女は言いました。

「出発の日に、空港の待合室で待機していたとき『ベトナムにいる間、何かの事件に巻き込まれたらどうしよう』って心配していたよ」と正芸さんは言いました。

「じゃ、ベトナムに滞在した一ヶ月の間に、事件はあった?！」

「そうだよ!!」彼女は語り始めました。

正芸さんは調査していた間に、近くの‘下龍湾 (ha long bay)’という島に旅行しに行きました。学校の先生はベトナム語が分からない正芸さんに、英語が話せる女性を紹介しました。正芸さんはその女性と彼女の夫と一緒に下龍湾に行きました。その日、船に泊まることになり、正芸さんと彼らは楽しく過ごしました。夜更かしのとき、彼女の旦那さんは甲板で話したいと言い、彼女を誘いました。正芸さんは彼がいい人だと思って、何も考えずについて行きました。話しの途中で、あの夫は「僕とワンナイトスタンドをしてくれない?」と言い出しました。冗談かなあと思ったが、彼はさらに「僕の妻は気にしないよ!大丈夫だ!!」と言って、無理やり彼女にキスしました。甲板の上はうるさ過ぎて、声を出しても誰も聞こえませんが、正芸さんは一生懸命走って自分の部屋に帰って、鍵をかけました。あまりの恐さに体が震え、声を出して泣いちゃいました。

「へえ一怖いよ!!もう少しでレイプされるところだったじゃない?」

「そうだよ!あのときすぐあなたに電話したかったけど、番号がなかったんだよ!もしあのとき私のそばにいれば、よかったのに。」

四ヶ月が経ちましたが、正芸さんはベトナム事件を述べたときの表情はまるで発生したばかりのようでした。正芸さんはいつも人を信用し過ぎるから、この事件に遭ったかもしれないと思いました。でも、彼女は無事に帰ってきたので、本当によかったと思います。

2-2 蔡正芸さんにとって十年間の友情に一番印象的なこと

続いて私は正芸さんにずっと聞きたかったことを質問しました。「私達の友情は今年で十年になりましたが、この十年間一番印象に残ったエピソードはありましたか?」と彼女に聞きました。

「あたりまえじゃない!」と言って、突然真面目な顔して「高校一年生の時、あなたに電話したら、時々めちゃくちゃ冷酷な態度だったから、『これ以上の付き合いはもうやめよう』と思った。しかしある日、突然あなたから電話が掛ってきて、何もなかったのようには喋り出した。あのとき、鄭雅徹らしいなあと思った」と彼女は語りました。

「ねえ、何であんな冷たい態度をとったの?本当に分からないよ!」

「ハハハ、私もよく分からない。今よく考えたら、あのとき確かにあなたと連絡したくなかったなあ!!だって違う高校に通っていたし、新しい友達も出来たし、色々あったんだよ!まあ、いいんじゃない、とにかく今私達ちゃんと連絡も取るし、大親友でしょう?!」と私はニコニコ笑いながら正芸さんに言いました。

「まあ、そうだけど、今思い出してもやっぱり怒るんだよ！でも、連絡し直して本当によかったね！十年も経ったんだなあ、光陰矢の如しだね！！これから二十年、四十年、いや、死ぬまでずっとあなたと大親友で居たいよ！」

その言葉聞くと、思わず涙が出てきました。彼女は私たちの友情をこんなに大事にしていたことはそれまで知りませんでした。すごく感動しました。正芸さんに出会えたことは、私の人生で一番幸せなことです！

3. インタビューの結果わかったこと

このインタビューから蔡正芸さんの魅力はもっと確信しました。蔡正芸さんの優しさ、そして、自分の成長のためにベトナムに行くこと、その独立は私が持っていない性格です。正芸さんそういう性格は私が日本に留学しに来る一大ポイントです。

留学の申し込み提出する前に、私ずっと悩んでいました。家族と離れなければなりませんので、それは生まれからずっと家にいる私にとっていままでがない経験でした。そして、留学ということ本当に自分をなにか成長できるのか、未来をなにか変わるのでしょうかと疑っていました。しかし、その時、正芸さんは私に自分の心の中に絶対になにか変わるだよ！自分を信じると言いました。この話を聞いて、正芸さん本当に大人だなあと感じて、その独立の性格は私がずっと持っていたい性格です。二人ともお互いがいない性格と考え方ですので、たぶんそういうわけで私達の友情はここまで続いて行けますと思います。

もう一つ分かったことは正芸さんの友達がいっぱいいるから、私のことたぶんそんなに気にしないかもしれないと思いましたが、あんなに感動な話ははじめて教えてくれて、本当に嬉しかったです。

じつはインタビュー終わった数日後、ある正芸さんにとって悪いエピソードがありました。正芸さんの彼氏は今ペルーに留学しているんです。彼女は突然別れようと言われました。正芸さんは自分の気持ちをほかの人にほとんど言わない、心に隠すタイプです。だからつらくて、悲しむ気持ちは私にも伝わらなかったです。もし素直に私に聞かせてくれば、慰めの話は私もちゃんと言ってあげられますのに。

まえ台湾にいったとき、二人ともバイトがあったし、大学生活も忙しいし、ただメールで連絡を取って、なかなか会えませんでした。今私は日本にいて、正芸さんとの友情は前よりもっと大事にしています。

4. 授業の振り返り

今回の日本事情Ⅱと前期の日本事情Ⅰはちょっと違います。インタビューについて一つのテーマを中心に一人一人で自分の文章を発表し、みんなでディスカッションします。

メンバー達インタビューしたい人は全部違います。家族や親友やちょっと親しくない友

達もいって、とても面白かったです。

話し合っただけで途中にたまにはディスカッション以外の話もあって、みんなのこともちよつとわかるようになって、だんだん親くなりました。そしてメンバー達は私より年下ですから、みんなの仕草や考え方はかわいいなと思いました。

みんなは日本語まだ下手な私に優しく、そして文法の書き直しとか分からない言葉の説明とか、みんなも教えてくれます。メンバーのおかげでこの授業は面白かったと思って、毎週の授業もとても楽しんでます。この授業を受けて本当によかったと思います。

来月授業が終わって、私も台湾へ帰ります。メンバーともう会えないので、悲しいと思います。

そして、この授業を通して日本の文化はもっと知ることができて、日本人の友達もできて、本当によかったと思います。

自分にとって魅力的な人

G10 医学部 保健学科 作業

療法学専攻 菅原絵美子

目次

- 1 どうして美咲さんにインタビューしたいか
- 2 インタビューで話したこと
- 3 インタビューをしてわかったこと
- 4 日本事情の授業を通して

1 どうして美咲さんにインタビューしたいか

私がインタビューしたいと思った人は同じ作業療法専攻の久保美咲さんです。彼女は私と専攻以外にも、ハンドボールという共通点をもっています。私は高校からハンドボール部のマネージャーをしていて、彼女は中学から始めたハンドボールを今でも続けています。私は医学部の部に所属していて、彼女は全学部の部に所属しているのでプレーしている姿を見ることは滅多にありませんが大会などで会うのをいつも楽しみにしています。前回の大会でも彼女は豪快なシュートを決めていました。厳しい部活と夜遅くまでのバイト、そして勉強の3つをバランスよくこなしています。

美咲さんの1番印象深かった出来事は夏休み中に行われた保健学科の球技大会です。どの競技においても素晴らしい運動神経を発揮し、私たちのチームのエースとして活躍してくれました。特に、ドッジボールでは男の人でも取れずに飛ばされてしまうような強烈なボールを投げて、みごと MVP をもらっていました。美咲さんはアクティブなところが1番

の魅力だと思います。いつも元気な美咲さんは私の憧れでもあります。

そこでハンドボールを始めたきっかけや秋田大学の作業療法専攻に入った理由、彼女の出身地である青森のよさ、またバイトや部活で忙しい生活の中で何を1番大切にしているかななどにも興味があり、聞いてみたいと思います。

2 インタビューで話したこと

インタビューは学校のお昼休みに行いました。

質問：ハンドボールを始めたきっかけは何ですか？

答え：小学校の頃陸上部だったのですが冬は大会がなく、顧問の先生に勧められて始めました。その顧問の先生は高校時代にハンドボールの選手として活躍していたので、とても熱心に教えてくれて大会にも出るようになりました。

美咲さんは足も速いので、陸上部というのは納得でした。美咲さんはハンドボールと勉強の両立のできる高校に進学したので、顧問の先生は美咲さんにとっても影響を与えたのだと思います。今でもずっとハンドボールを続けているので本当にハンドボールが好きなのだろうと思います。

質問：美咲さんは部活やバイトで毎日とても忙しそうですが、大変ではないですか？

答え：つらい時もあるけど頑張っています。テストもあるので大変です。寝坊しないように頑張っています。

生活の中で1番大切にしているものはバランスです。バイトだけ、部活だけにならないように気をつけています。

美咲さんはこの日も手作りのお弁当を持ってきました。手作りのエビチリはとてもおいしそうでした。料理もできて憧れます。毎日忙しいのに、きちんとお弁当を作ってきていて、本当にしっかりしている人だと思います。

質問：このような忙しい生活の中で何を1番大切にしていますか？

答え：バランスを1番大切にしています。バイトだけ、部活だけにならないように気をつけています。

確かに美咲さんはどれもバランスよくこなしています。

質問：青森の良いところは何ですか？

答え：やはり1番有名なものはねぶた祭りだと思います。とても盛り上がるお祭りで、私も大好きです。

ちなみに私の出身の六ヶ所村では長いものが名産です。

私は部活の大会でしか青森に行ったことがないので、1度観光に行ってみたいです。特にねぶた祭りには興味があります。大会の会場は十和田市で、青森市とはとても遠い場所だったので青森市には十和田市とはまた違う魅力があるのだらうと思いました。

ちなみに十和田湖はとてもきれいな湖で紅葉の季節に訪れたらきっともっと素晴らしいのだらうと思いました。

質問：どうして秋田大学の作業療法専攻に入ったのですか？

答え：第一志望は別の大学の保健学科の作業療法ではない専攻だったのですが前期試験で落ちてしまい、秋田大学の作業療法学専攻に入りました。同じ医療の道だし、リハビリにも興味があったので今は入ってよかったと満足しています。

美咲さんは授業も熱心に受けています。

私は解剖実習のグループが彼女と同じだったのですが、細かい血管や神経も丁寧に解剖してくれるのでグループの中でもとても頼れる存在でした。

質問：秋田での生活はどうですか？

答え：秋田も青森も雪はたくさん降るので気候で困ることは特にありません。むしろ地元六ヶ所村のほうがたくさん雪が降ります。

秋田では1人暮らしなので料理や洗濯、掃除が1番大変です。時間を見つけて掃除や洗濯をするようにしています。大変な時もありますが、しなければならいことなので頑張っています。

特に食事はカゼをひいたら大変なので野菜を十分とるようにしてバランスの良い食事を心がけています。

私は実家から大学に通っているのですがどのくらい1人暮らしが大変かわかりませんが、

やはり時間を見つけて掃除などやるのは忙しい大学生にとって大変だと思います。

食事を作るのも学校や部活から帰ってきてからだと思うのでますます大変だと思います。

3 インタビューをしてわかったこと

インタビューをして改めて、美咲さんは本当にしっかりしている人だと思いました。私は

特に厳しい部活もやっていないし、実家から通っているので家族に甘えがちなのでもっと自立しなければならないと思いました。特に今年は成人式もあるのでもっと自立した生活を送らなければならないと痛感しました。

私が美咲さんの1番の魅力だと考えている、アクティブな面は好きなことを楽しんでいるからこそ素敵に見えるのだらうと思いました。ただ好きなことを楽しむだけでなく、やらなければならないこともしっかりとやっているところも魅力の1つだと、インタビューをして改めて気付きました。また1つのことをずっと続けているというところも魅力の1つだと思いました。

私は部活としてのスポーツは中学校までしかやっていないので、今でもスポーツを続けているのはとても素晴らしいと思います。私は運動不足で体力も落ちているので、私も美咲さんを見習って何かスポーツを始めたいと思いました。私も美咲さんのようにアクティブになりたいです。

4 日本事情の授業を通して

日本事情の授業を通して自分の興味のある人に普段はなかなか聞けないことも聞くことができました。友人を詳しく知ることができたのでとてもよかったです。これからさらにその友人についての理解を深めるよいきっかけになりました。

いつも一緒にいつ友人に改めてインタビューするのは気恥ずかしものがありました。あまり経験することができないものだったので人とのコミュニケーションを図る上でとても貴重な体験をさせてもらいました。社会にでてからも重要なことなので、これからは生かしていきたいと思います。

また授業で留学生とも触れ合えたのも良い経験となりました。日本事情以外の授業では留学生と話す機会はなかなかないので仲良くなることができよかったです。台湾や韓国など出身の留学生と話し、それらの国についてもテレビのニュースだけでは知ることのできない国の習慣や常識を知ることができ、とても興味深かったです。外国の文化を知ること、さらに客観的に日本文化を見つめ直すことができたと思います。

自分の友人をさらに詳しく知ることができ、また日本と外国の文化の相違について知ることができた日本事情の授業はとても有意義なものでした。これからは機会があれば諸外国

の文化について学びたいと思います。

私の母

日本事情Ⅱ G10

.. 呉 佳恬

目次

- 1, インタビューしたい人について
- 2, インタビューしたい動機
 - 2-1. 私の心に世界一番きれいな母
 - 2-2. 何をやっても、必死に頑張っている母
 - 2-3. 魅力的な母
 - 2-4. 私にとっては大切な母
3. インタビュー
 - 3-1. インタビューの時間・場所など
 - 3-2. インタビューの内容
4. インタビューの結果わかったこと
5. 授業の振り返り

1, インタビューしたい人について

私の母です。今母は台湾の会社で勤めています。

2, インタビューしたい動機

自分にとって一番大切な人は母です。私は何かあったり、迷っちゃうときには母と相談したいです。自分の母はとても開けていますから、母とは何でも話すことができます。たとえば、高校や大学を選ぶこととか、将来の就職についてこととか、さらに、彼氏とけんかすることも母と話し合っているのです。

昔、毎日学校が終わってから、私はずっと母のそばにまわりながら、学校であった面白いことか、悲しいことなど、母にどんどん話していました。母も興味を持って、喜んでいました。自分は今、交換留学のため、日本に来てからそろそろ一年間くらいになります。この間に友達がいつも伴っていますが、時々母と一緒にしゃべっている場合が思い出して、とてもさびしいと思っています。というわけで、今度のインタビュー相手は母に決めました。

2-1. 私の心に世界一番きれいな母 — 私の母は女優でした。

私の母は今年五十一歳になりましたが、顔が若くて、綺麗です。そして、いつも元気があるから、母は実年齢にはぜんぜん見えません。

実は、若い時の母は女優として活躍していました。様々テレビドラマや映画、CMなどに出演していました。小学校一年生の時、母が撮影していたところも見学に行きました。普段優しい母が黒い布で顔を隠していて、小刀で人を殺したのはとてもびっくりしました。でも、母は妹を妊娠してから、芸能活動をすべてやめました。今は昔の女優の母を知っている人はおばあさんとおじいさんしかいません。それでも、母は昔から自分の写真が載っている雑誌をたくさん残しています。それは母の大切な思い出です。

2-2. 何をやっても、必死に頑張っている母 —

私の母はキャリアウーマンです。

そんなに綺麗な母なのに、母の一番の夢は有名な女優になることではなく、世界一番の母になることです。だから、たとえば家のカーテンやいすにして座布団などはすべて母の手づくりの作品です。それに、私が小学校のとき、母は毎日、毎日おいしい弁当を作って、綺麗に並べてから、学校の正門で待っていました。あの時の母は仕事をしていなかった、専業主婦でした。

だが、中学校になったとき、少しばかり家計が苦しくなり、母は仕事をしなければならなくなりました。そして、会社勤めをしたことがなかった母は保険の会社で働くことになりました。それに、仕事がよくできるから、すごく短い間に経理になりました。会社の高い給料とボーナスで家の家計は改善されました。でも、母が毎日忙しくなっただけからは、いつの間にか、母が作るおいしい料理を食べられなくなりました。それでも、主婦と会社勤めも頑張っている母は私のアイドルです。将来は母のような何をやっても、いのちをかけて真面目に頑張っている女性になりたいです。

2-3. 魅力的な母 — 私の母はムードメーカーです。

母をよく知っている人は、母は綺麗で、仕事能力が高い人と認めてくれます。でも、私にとって一番魅力的なのは母の明るい性格と楽観的な考え方です。母は明るくて、ユーモラス、それに同僚は母がムードメーカーだと思っているから、友達がいっぱい出来て、会社にはすごく人気がある人です。会社では母は上司なのに、仕事が終わってから、時々部下たちと一緒に食事をしたり、カラオケをしたりしています。毎年母の誕生日になると、同僚は母のために盛大なパーティーを行って、素敵なプレゼントを母にくれます。みんなは仲がよくて、会社ではとてもいい雰囲気です。

2-4. 私にとっては大切な母 — 私もこんな女性になりたいです。

母はとても楽観的で、知恵がある人です。小さい時から、母は私にたくさん物事の処理方法や正しい考え方などを教えてくれました。私はいろいろな知識が身についただけではなく、とても生活の役に立ちました。ちなみに、自分が大好きな母の言葉は『私に何が起こっても、私にとってはすべてよいことです』ということです。たとえば、大学入学のときに、自分の理想の学校に入れませんでした。それでも、大学の間一生懸命勉強したおかげで、短期留学の素晴らしいチャンスをもたらえました。というわけで、私がいつも母の考え方に賛成しています。

そして、小さい時から、母はとても開けています。母には人の価値は「学歴」と言うより、正しいものの見方だといいます。私が間違った時には、母は直に怒ったりしなかったりはしません。私としっかり話し合っ、どうして間違っ原因を探ることだから、母とは何でも話せるから、親じゃなくて友達みたいです。こんな素晴らしい母が私は大好きです☆

3. インタビュー

3-1. インタビューの時間・場所など

2008年12月8日 pm.6:00

母は毎日忙しくて、時間がなかなか合わないので、連絡がとれませんでした。インタビューできるかどうか不安でしたが、妹が母に伝えてくれたおかげで、インタビューの時間が取れました。私は部屋でMSN メッセンジャーを使って、母と話し合いました。

3-2. インタビューの内容

私 「母さん、今回のレポートは自分がインタビューしたい相手について紹介することなので、お母さんと話した内容を書くのよ」

母 「へえ、そうなの」

母はちょっとびっくりしました。

母 「何を書いたの」

母は少し興味をしめしました。何か秘密とか、悪口とかを書いてあるのではないかと心配していたかもしれません。私はレポートを母に読んであげました。読んでいる間に、母は時々笑顔を見せました。読み終わると、私は感想を聞いてみました。

私 「どうだった？」

母 「面白いなあ、あんなに詳しく書くなんて」

私 「だね」

母についてあんなに詳しく知っていることは自分にとっても信じられませんでした。

母 「うん、それで？」

私は母の顔を見ながら、笑い出しました。なぜなら、自分は母ととても仲が良いですが、あんなふうに個人的な問題を話し合うことはあまりないから、お互いちょっと恥ずかしかったからです。

私 「ね、何か実際とは違うことがある？」

母 「ふうん、だいたい大丈夫かなあ」

私 「じゃ、レポートについて、母さんに質問するよ」

母 「うん、いいよ」

私 「母さんは若い時に女優としてドラマやCMなどで活躍していたよね？」

母 「うん、そうよ」

私 「じゃ、あの時はきっとモテモテで、母さんのことが好きな人はいっぱいいたでしょう？」

母 「ふうん、いることはいるんだけど、それほどでもなかったよ」

私 「ハハハ…」

母は全然恥ずかしくなさそうだったので、私は思わず笑い出しました。あんなに面白い母の顔を見るのは初めてでした。

私 「聞きたい、聞きたい、母さんの若いころの恋愛話を聞きたい」

実は、昔母から聞いたことがあったが、また聞きたくなりました。

母 「いやんなっちゃう、そんな昔の話」

私 「頼むよお、だいたいでもいいから」

母 「まったく、しょうがないなあ」

母は微笑みながら、話してくれました。

次は母の話のまとめです

ある時、母は映画の中の綺麗な風景を取るために、タイに行くことになりました。母が出演した映画はタイでも上映していたから、そちらでもとても人気がありました。そして、撮影している間に、タイのプリンスに知り合いました。そのプリンスは母のことが好きになり、毎日タイの名物、ドリアンという果物を母の滞在しているホテルに届けてくれました。母はドリアンが好きですけど、毎日食べると、いやになり、いつもホテルで働いているドリアンを買えない貧乏な従業員にあげました。母が台湾へ帰る前に、プリンスはプロポーズをしました。でも、母は断りました。

私 「わあ～、すごい、さすがだね」

その時の私はとてもうらやましくて、母にあこがれました。

母 「アハハ、てれちゃうなあ」

私は母の恋愛話を聞くのが好きですが、いつも同じ話をするので、違う話も聞いてみたいと思いました。

私 「ところで、母さん今は保険会社で働いていて、仕事はうまくいってる？」

母 「うん、アメリカの本店は今年破産するけど、台湾の方は前年度ほど業績がよくな
いけど、まあ、だいたいOKかなあ」

私 「じゃ、どうして仕事がよくできるのか、教えてちょうだい」

実は、将来自分も母と同じ会社で働きたいんですが、母にはその仕事をする時、どんな気持ちを持って仕事に取り組んでいるのか、どうやって接客をしたらいいかなどを聞きたいです。

母 「うん、仕事をしている時は、いつもお客さんの立場に立って考えたり、お客様にと
って、一番よい方法を選択してあげることがとても重要なの」

私 「そうか、分かった」

お客さんとのやり取りは電話だけではなく、家で行うことも時々あります。いつも我慢強く、やさしくみんなと話しをする母の姿をよくこの目でみました。だから、母が言ったことは、私はすでに知っていました。でも、自分でやることになったら、すごく難しいかもしれせん。私が母に話したいことはいっぱいありましたが、時計を見ると、もう11時になったから、寝る準備をしなきゃと思いました。

私 「母さん、ありがとう、もう晚いから、寝ようか」

母 「そうね、じゃ、お休み」

私 「お休み」

久しぶりに母とゆっくり話せたので、なかなか楽しかったです。

4. インタビューの結果わかったこと

今回私は母と話したことはだいたい仕事のことです。最近、全世界は金融危機なので、母が勤めている会社の本店も破産を宣告してしまいました。台湾の支店とアメリカの本店は直接な関係がないですけど、ある社員はリストラされました。それはすごく大変なことです。母の仕事も多かれ少なかれ影響があります。それで、母はもっと頑張って、自分の能力をのばしたおかげで、今は大丈夫だと言いました。ほっとしました。

自分は留学のために、生まれてから、そんなに長い期間親と離れたことがありません。母はいつも何も話さなくて、気にしない様子をしていますが、私は母がずっと心配しているのが分かっています。母と話していると、私が最近何をしているとか、どこかへ遊びに行ったとか、母は全部知っています。なぜかと言うと、母は毎日私のブログを見ているからです。だから、知っているのです。異国で一人頑張っている娘のことがとても気になるということでした。母は本当に私のことを心配している気持ちが分かりました。

5. 授業の振り返り

最初は6,400字のレポートを書くことが必要と聞いてから、ずっと心配していました。でも、毎回少しずつ書いて、グループの人からたくさんアドバイスをもらって、やっと出来上がりました。私は自分の日本語がまだまだうまくないので、これほど長いレポートを完成させることができたのは、すごく嬉しいです。

そして、私が今受けてる授業は日本時と話すチャンスがほとんどありません。ただこの宿題のおかげで、自分が日本人とほかの留学生たちとたくさん話す機会があり、いろいろな友達も出来ました。みんな仲良くなって、学校で会った時は元気な声であいさつするので、なかなかいい感じがします。とてもこの授業を受けてよかったと思っています。

～彩夏ちゃんについて～

工学資源学部 生命化学科

G10:永井 未希

目次

1. 私がインタビューしたい人について
2. インタビュー
3. インタビューの結果わかったこと
4. 授業の振り返り

1. 私がインタビューしたい人について

インタビューしたい人→彩夏ちゃん

私がインタビューしたいと思っている人は、同じ生命化学科に所属している彩夏ちゃんです。

彩夏ちゃんとはお友達ですが、普段はあまり話す機会がないので今回の授業を通してもっと彩夏ちゃんについて知りたいなと思っています。

彩夏ちゃんは私と同じ秋田県出身で高校は本荘高校でした。

彩夏ちゃんは高校のとき吹奏楽部に所属していて、大学に入っても楽団に入っ
て今も日々練習を頑張っています。

彩夏ちゃんは一言で言うと“可愛い”です。それに彩夏ちゃんの笑顔を見ると、癒されます。なので、私は勝手に学科の中で彩夏ちゃんは、アイドル的存在だと思っています。

そんな彩夏ちゃんと初めて会ったのは学科のオリエンテーションの時でした。でも、その時は全く話せませんでした。

私が彩夏ちゃんとちゃんと話したのは学科のお友達何人かで男鹿の水族館のGAOに行った時でした。私はバスの関係で待ち合わせ場所に早く着いてしまいました。そうすると、彩夏ちゃんも早く着いていてみんなが来るまで高校の時の話などをしました。

でもそれから今まで話すことがあまりなかったのでこのインタビューでたくさん話して彩夏ちゃんの知らなかった一面を知りたいです。

私は思う彩夏ちゃんは前でも述べたように“可愛い”でまだはっきり彩夏ちゃんは〇〇な人だと言えないので、今回のインタビューでは彩夏ちゃんがどういう人かどういうことに興味があるかを聞いて彩夏ちゃんは〇〇な人だよと彩夏ちゃんのことを知らない同じグループの人たちに紹介できるようになりたいです。

私の友達が彩夏ちゃんは“小島よしお”が好きらしいと言っていてびっくりしました。

今回のインタビューではそういう彩夏ちゃんの意外な部分も発見できたらいいなと思っています。

また、私は彩夏ちゃんの大学に入る前のこと、大学に入ってからのが全然わからないので彩夏ちゃんがどういうことをしてきて、今どういうことをしているのか今回しっかり聞きたいです。

そしてこのインタビューで私と同じところや共通なことを見つけてこの授業をきっかけで普段の生活の中でももっと話す機会がふえればいいなと思っています。

2. インタビュー

未希「どんな曲が好き？」

彩夏「失恋ソング！！特に花*花の『あなたへ』って曲がすきだよ！！！！

いつかいい女になって振り向かせてみせるってフレーズが好き！！」

未希「彩夏ちゃんよくゆず歌うよね～！！ゆずも好きなの～！？」

彩夏「ゆずは中学校のとき仲良かった友達がめっちゃ好きでその子の影響で！！

ゆずの曲はほとんど歌えるよ～♪♪」

未希「杏ちゃんや祐子ちゃんからみて彩夏ちゃんはどういう人??」

杏「彩夏ちゃん…変な人！！(笑)今風にみえて意外とそうでもない！！(笑)

あと一笑うときの声が低い！！引き笑い！！(笑)」

祐子「彩夏ちゃんはね…女の子っぽいと思ったけど実はサバサバしておっさんぽい！！

(笑)あと、彩夏ちゃん適当だよ～！！(笑)」

未希「え～！！どおいうところ??」

祐子「プリクラを決めるときとか！！」

彩夏「だって消去法で決めてるもん！！(笑)」

祐子「そっかあ～」

彩夏「でも私、服とか決めるときとか優柔不断だよ～！！」

未希「うちも同じ～！！」

彩夏「だから次の日の服は前の日に決めるんだ～！！

服選ぶとき30分くらいかかっちゃうんだ～！！」

祐子「でも服選んで買うときは即決だよねっ（笑）！！」

彩夏「安いものは買っちゃう！！

でも古着は着ない！！新しくて安いものを買うよ！！」

未希「でも彩夏ちゃんの服かわいいよね～」

未希「そお言えば一朝はどういう感じなの？！」

彩夏「朝は7時に起きて8時半に家出る！！

でも少しでも時間あると色んなことしちゃうんだよね～！！

希望としては朝ごはんをゆっくりたべたいなあ～！！」

未希「朝はご飯派？？パン派？？」

彩夏「白米嫌い～！！」

未希「他に嫌いなものある？？」

彩夏「牛乳嫌い！！あとグリーンピース嫌い！！」

未希「じゃー逆に好きなものは？？」

彩夏「抹茶とかきなことか和風系が好きっ！！

でもチョコは好きだよ！！

あっ！！でもでも生クリームは嫌い！！」

未希「へえ～」

未希「彩夏ちゃんの家族構成を教えてください♪」

彩夏「おじいちゃんとおばあちゃんとお母さんと4つ下の弟だよ！！

お父さんは単身赴任なんだあ～！！」

未希「そおなんだあ～」

未希「そお～だっ！！

彩夏ちゃんって小島よしおすきなんでしょっ（笑）！？」

彩夏「小島よしおは内面が好きなんだあ～！！

でも平成教育委員会に出てるうじはらっていう京都大学出身の芸人が一番好き！！」

未希「彩夏ちゃんってどんな人がタイプなの！？」

彩夏「身長が重要なあ～！！175cm～180cmが理想！！

いい人に弱いっ (笑) !!」

未希「じゃー醤油派!?ソース派!？」

彩夏「醤油派!!濃い人ちょっと苦手かなあ〜」

未希「他に何かある!？」

彩夏「ん〜一途な人が好きかなあ〜

あと〜A型の男の人は苦手かなあ〜!!O型の男の人が落ち着く〜!!

自分が優柔不断だから決めてくれる人がいいなあ〜!!」

未希「最近のマイブームとかってある??」

彩夏「最近友達の間でフードが裏返ってる人を探すことっ (笑) !!」

未希「へえ〜 (笑) 」

未希「彩夏ちゃんって何か習ったりしてた??」

彩夏「ピアノは小学校1年生〜高校3年生まで習ってて、水泳4歳〜小学校4年生まで習ってたよ!!」

未希「他にできることとかある??」

彩夏「編み物できるよ!!でも、作っても作ったもの使わないんだ〜 (笑)

ただの暇つぶしなんだあ〜!!

あとスキーもできるよ!!」

未希「そお言えば…大学に入る前の彩夏ちゃんについて教えて!!」

彩夏「小学校の時は2回転校したんだあ〜!!

だから初めは湯沢小学校で次は中通小学校でその次が平沢小学校!!

小学校1年生の時はバスケットボールをやってて小学校5年生から中学校、高校、大学で吹奏楽をやってるんだあ〜」

未希「楽器は何やってるの?」

彩夏「ホルンだよ」

未希「小学校から今まで続けてるのってすごいね!!

これからもがんばってね!!」

彩夏「うん。」

3. インタビューの結果わかったこと

インタビューで聞いた質問は単純なことばかりだったけど、このインタビューで彩夏ちゃんについて知らなかったことを知ることが出来た。

このインタビューで彩夏ちゃんといつも一緒にいる杏ちゃんと祐子ちゃんから彩夏ちゃんについて聞いてわかったこと、彩夏ちゃん本人から聞いてわかったことの2つがあった。杏ちゃんと祐子ちゃんから聞いてわかったことは私がイメージしていた彩夏ちゃんは見た目と同じくすべてが女の子らしいと思ったら、意外にサバサバしててインタビュー結果からもわかるように意見をはっきり言ったりまた面白い一面もあることがわかった。彩夏ちゃん本人にインタビューしてみてわかったことは、優柔不断で学校に行くときの服を選ぶのにすごく迷うと言っていて、私も優柔不断なので同じだなと感じた。でも、彩夏ちゃんは服を買うときは即決だったり、食べ物にしても好きなもの、苦手なものをはっきりしていて、また自分がどういう人だからどういう人が合う、合わないというのを自分でしっかりわかっていた。私はすべてが優柔不断で未だにたまに自分が良く分からなくなるので彩夏ちゃんみたいに質問されてすぐ答えられるようになりたいなと思った。今回のインタビューでわかった彩夏ちゃんの魅力は見た目のかわいさとそのかわいさとは逆に意外とおやじギャグを言ってみたりして面白いところでもやはり一番の彩夏ちゃんの魅力はあのほんわかした笑顔かなと思った。

4. 授業の振り返り

この授業を通してインタビューした人について今までより知ることができ、この授業の中で日本人、留学生のお友達も新たにつくることができ、また秋田大学・弘前大学・岩手大学合同の北東北大学外国人留学生の合同合宿研修会にも参加することができた。

授業、合宿で留学生の人たちとたくさん話す機会ができ、他の国の文化など色々教えてもらい私の中での他の国への関心が深まった。

本当にこの授業を受けることができてよかったと思う。

この授業が終わってからも他の国への興味、関心を持ち続けたいと思う。

友達みたいな姉。

工学資源学部 生命化学科
G10 松田 帆珠美

目次

- 1、 私がインタビューしたい人について
- 2、 インタビュー内容
 - I、 大学生活について
 - II、 好きなもの
 - III、 洗脳された？
 - IV、 姉らしさが出た。
- 3、 インタビューの結果わかったこと
- 4、 授業の振り返り

1、 私がインタビューしたい人について

私は三人姉妹の末っ子です。姉が二人いるのですが、長女は私の八つ年上、次女は私の二つ年上です。これから語るのは次女についてです。

私が長女と八つ年が離れていることもあり、昔から次女とは仲がよく友達のような関係でした。長女のことはお姉ちゃん、と呼ぶのに対し次女のことは呼び捨てにしていました。私の姉のはずなのに、姉らしくないところがあったからかもしれないです。

昔、お花見に行った時にお化け屋敷に入った時のことですが、お化け屋敷に入ろうとしていた時点で少し変な光景になっていました。私がスタスタと前を歩くのに対して、姉は私の後ろについてきていたのです。私よりも姉の方が怖がりだっただけなのですが、頼りないなあ、と思わざるを得ませんでした。もちろん中に入ってから私が前を歩いていたのは言うまでもないです。

姉は怖がりでもありますが、寂しがり屋でもあります。買い物に行くときは、必ず私に向かって「はずみ、行くよー。」といて絶対に連れて行かれます。嫌だといっても連れて行かれます。大変な姉です。だけれど、そういう風に振り回されても嫌な感じはしません。姉の性格の良さがあるからなのか、仕方ないなあ、とってしまうのです。

とりあえず、姉は私のことをよく振り回します。というよりも、人のことをよく振り回します。しかし、周りの人をいつも明るくさせ、楽しませてくれる人です。だから姉はいろんな人に好かれています。もちろん私も姉のことは大好きです。そして、いつも目標としています。だから、姉は私にとって魅力的なのだと思います。

私にとって、姉はかけがえのない存在です。家族の中で唯一、遠慮をせずに甘えられる相手です。私の実家ではリビングにパソコンが置いてあるのですが、姉が夜にパソコンをやっていたりすると、私は姉の足を枕にして寝転がったりします。絶対に足が痺れたり、痛かったりと思うのですが、姉は文句を言わずに乗せてくれています。

そして、温かく気持ちが良いのでいつの間にか眠ってしまっているのですが、優しく起こしてくれます。実家に帰省しているとき一度くらいは、一緒に眠ります。

高校受験や、大学受験のときは特に姉がいてくれてよかったと思いました。勉強のストレスや両親とのケンカなどで精神的にガタガタだったときに、さりげなく支えてくれました。大学受験の時、姉はもう一人暮らしをしていたので、直接話をしたりはできなかったけれど、メールや電話などで連絡をくれたり、実家に帰ってきたときには話を聞いてくれたり、「大丈夫なの？」と心配をしてくれたりいろいろと気を使ってくれました。

私は受験の時、本気で家にいたくないと思っていました。自分が頑張っているのを親に見られるのが恥ずかしかったし、何か言われるのも嫌でした。頑張っているところを見せないのに、“自分が頑張っている”と認めてもらえないのが嫌で、すごく自分勝手でした。多分姉がいなかったら、受験の時頑張れなかったし、途中で頑張るのをやめていたと思います。私にとって、姉は心の支えでもあるのだと思います。

そして、私にとって姉は憧れであり、目標であります。中学校の時は、姉がやっていたから、生徒会に入りました。高校は姉が目指したから、同じ高校を受けました。姉妹じゃなかったらストーカーみたい……。大学はさすがに、真似をして決めるものではないなと思ったので、ものすごく苦しんだ結果進路を決めました。影響を受けているところはあります。

姉がお菓子作りにハマったときは、真似っこしてお菓子作りをしていました。真似っこばかりしていたのに、それを怒らず認めてくれる優しさが大好きです。だから、お菓子を作った時は、最初に姉に食べてもらいたいと思います。姉がおいしいと認めてくれたらとてもうれしく思います。

どんなときでも姉が最優先である、というのが今の私だと思います。自分自身で、シスコンだなあとよく思いますが、治らないだろうなと思います。シスコンである自分を恥ずかしいとは思わないし、姉が姉であることを誇りに思います。

とても仲がよく、支えにもなってくれる姉なのですが、ひとつだけお互いに見せないことがあるのです。それは、恋愛に関してです。私に彼氏ができて姉とそういう話をしたことはなかったし、姉の恋愛話を聞いたこともないのです。彼氏が今までできたことがあったのか、好きな人がいたのかどうか、まったく知りません。一番上の姉とはよく、恋愛についてお話はしていましたがなぜか姉とはそういう話をしたことがないです。それだけがすごく気になる……。そういうところをインタビューで聞けたらいいなと思います。

2、インタビュー内容

まず、インタビューしたいということを姉に伝えたところ、「なに、何の授業??」と聞かれたので、「異文化コミュニケーションっていう授業で、自分にとって魅力的な人について、どこが魅力なのかとかを考えて、インタビューするんだよ」と言うと、「なにそれー、いっぱい魅力あって困るんじゃないー?っていうか忙しいのに時間とらなきゃだめじゃんー」とふざけて笑いながら文句を言いつつ、でも少し嬉しそうに見えました。

I、大学生活について

私「将来の夢は何？またきっかけは？」

姉「えー、いきなりそれ聞く？」

と文句を言いながらも、真面目に答えてくれました。

姉「将来の夢は、臨床心理士。きっかけは中学校のときに読んだ本」

私「そのためにがんばっていることは？」

姉「大学院に進級するための勉強」

私「大学生活は楽しい？」

姉「やっとなんてなってきた。3年になってからが楽しい」

私「え、なんで3年になってからなの？」

姉「仲がいい友達が増えたしー、ゼミも楽しいし。先生もいい。」

「生活が充実してるんじゃない？」

「毎日ピアノ弾けるから、趣味の時間もとれるし。飲みでも幹事たくさんやる」

「研究室にたくさん遊びに行ける。先生に”あなたは誰とでも仲良くなれるんですね”って言われた。」

「人生についても話すなあ。卒論とか就活とか大変だから、よく友達の話聞いている」

「いっつもねー、笑顔ふりまいてるんだよ。人を楽しませてあげるの」

私「うわ。それ、疲れない？」

姉「疲れるよ！でもねー、誰も気づいてないの」

私「んー。恋愛関係は??」

姉「社福にはね、男性が少ないんだよ。みんな友達かな」

私「彼氏つくんないの?!」

姉「いい人がいないかなー。いや、顔がカッコイイ人はいるんだけど、なよなよしてて性格が微妙なのさ」

II、好きなもの

私「んー、じゃ好きな曲とかは？」

姉「the back horn でしょー、Mr.children でしょー、one ok rock でしょ。」

「あと中島美嘉も好きだし、洋楽はアブリルと sum41 は聴くよ。」

「sum41 の with me っていい曲だから聴いてみ！」

私「あれだね、ロックとクラシック好きなんですよ」

姉「あー、クラシックはベートーベンの交響曲第7番第1、第4楽章とね、ブラームスの交響曲第1番4楽章でしょ、モーツァルトのレクイエムと2台のピアノのためのソナタも好き。あとラフマニノフとショパンも好きだよ」

私「ほいほい。んじゃー好きな本は??」

姉「マンガ！」

私「や・・・確かに本だけだよ。」

姉「だって基本的に本キライだもん」

私「好きな作家とかいないの」

姉「あー。青木和雄は大好き！ハードルとか、ハッピーバースデーとかよかった」

私「じゃー好きな人」
姉「市原隼人でしょ。お笑いもあり？」
私「ありあり」
姉「ならチュートリアルの福田くんとしずるでしょ。」
姉「はんにゃ、小出恵介に小泉考太郎」
私「あーかっこいいね。」
姉「細川茂樹に今は佐藤健も。あと哀川翔と品川も」
私「あー確かにみんないいー。」
姉「一番はこっちだよ！二番はチュートの福田くん」
私「あーはいはい。わかってるって」

Ⅲ、洗脳された？

私「尊敬してる人とかいる？」
姉「えーたくさんいるんだけど」
私「んー、最っ高尊敬してる人とか。」
姉「ゼミの先生かなあ。でもやっぱり両親が一番だよ」
私「えー、すご。親を尊敬してるなんて答えられないんだけど」
姉「なんで？！わがままなほずみをここまで育ててくれたんだよ、すごいと思わない？」
私「いやーすごいとは思うけどー・・・尊敬してるとはまだ思わないなあ」
姉「尊敬しなさい！」
私「あはは、ほずみがまだガキだからわからないんだろうねー」

姉「そーだ、支えになってる言葉教えてあげるよ」
私「なにになに」
姉「”目の前の苦しみのために、未来の可能性を投げ捨てたりしないで”」
私「・・・うお、かっこいい。」
姉「でしょ？今卒論とかでツライじゃん？すごい支えになる」
私「うん、それは本当にいい言葉だと思うよ。なんかほずみにとってもかなり効き目ある」
姉「もう一個あるの。成功する人間になろうとするな」
私「え、かっこいい！」
姉「続きがあるんだって！成功する人間になろうとするな、価値のある人間になれ」
私「おおお。かっこいいね、ソレ！」
姉「普通みんな成功する人間になりたがるじゃん？でもそれじゃ、ダメで。価値のある人間にならなきゃいけないんだね」
私「深いね。でも成功する人間にはなりたいよね」
姉「そうだね。だから成功しつつ、価値のある人間にならなきゃいけないんだよ」
私「いやー深い。かっこいい。でも最初のほうが好きかも」
姉「えーなんで？」
私「だって、朝起きるの辛いじゃん。テストもめんどくさいじゃん。でも、それで未来をダメにするのはよくないなーって思う」

姉「そういえば単位大丈夫なの?!」

私「大丈夫じゃないかなあ」

IV、姉らしさが出た。

私「んーじゃ最後に、ほずみがインタビュー相手にあなたを選んだってことをどう思う？」

「ってというか、魅力を感じてるとか、言われてみてどう思った？」

姉「当たり前」

私「当たり前なんだ?笑」

姉「当たり前だよー! あんなにいつも可愛がってあげてるんだもん! 魅力を感じないわけがないって!!」

私「そっかー、確かにねー。んじゃこの辺でいいかな。ご協力ありがとうございましたー」
インタビュー終わり♪

3、インタビューの結果わかったこと

インタビューをしてみて、姉のことを魅力的に感じるの「当たり前」だと言われて、「確かに、そうかなあ」と思いました。そして当たり前だなんて答えられる姉がやっぱりおもしろい人だな、とも感じました。いろいろと教えてくれたり、ダメなところは怒ってくれたり、自分の保護者みたいなところがあるのも魅力的な点なのだと思います。そんなしっかりした人なのに、怖がりだったり寂しがり屋だったり。時にはわがままに振り回してみたりと、大変なこともあるけれど憎めないのは姉のことが大好きだからなのだと思います。

姉は、自分の中をさらけ出して弱音を吐くようなことは滅多にしない人なので、とても精神的には疲れると思うのですがそれを出さないのはすごいな、と思います。でもそんな姉の負担を少しでも軽くできるように、愚痴を聞いてあげたり振り回されてあげたり、自分にできることはしたいと思いました。

姉はやはり、自分にとっての目標なのだと改めて思いました。

* I について

将来の夢のことについてや、恋愛関係について聞いた時に口数が少なかったのは、やっぱり照れくさかったのかなあ、と思いました。そして、学校生活についてたくさん語ってくれたのはなんだかんだでストレスが溜まっていたのだろうな、とも感じました。インタビューをしてみて、やはりこの姉とは腹をわって恋愛話をしたりはできないだろうな、と少し寂しくも感じました。私も、私で聞いていて照れくさかったので、お互いに照れていたならそんな話は無理ですよ。少し納得。

* II について

自分の好きなものや興味のあるものについて話し出すと止まらなくなるのが、姉です。多分、語ってとお願いすれば耳にタコができるくらい語ってくれると思います。

*Ⅲ、Ⅳについて

私が魅力に感じている姉らしいところが出ているところだと思います。

ダメなところはダメ！と言ってくれる姉は、インタビュー中でも軽く説教してきました。そして、心配もしてくれました。自分にとってプラスになることは、教えてくれました。姉に育てられたと言っても過言ではないな、と思うほど私の面倒を見てくれていることがわかったインタビューでした。

そして、一番姉らしいところがⅣの「当たり前」という返答です。少しくらい謙遜してもいいのに、それをあえてしない面白い人。それを素直に受け入れることができるのだから、やはりとても魅力的に感じている部分はそんなところなのかもしれません。私にはできないな、と思うことをやってのけるすごい人だと思っています。

だからこそ、姉はいつまでも私の目標なのです。

4、授業の振り返り

この授業を通して姉について知りたかったことについて少しは知ることができたし、留学生の友達を作ることができるなど、普通に生活していたら体験できないようなことをやらせてもらった授業でした。企画ものには全く参加できなかったけれど、授業中でも留学生の人たちと仲良くなることができ、とてもうれしかったです。今後は留学生の人たちと触れ合う機会がなくなってしまうのがとても残念です。

いろいろと大変なところもあったけれど、とても充実した時間を過ごせたと思います。この授業を受けることができ本当によかったと思います。

文化とは何か、国とは何か、など普段は考えないようなことについて興味を向けることができたのもいい点だと思います。そのようなことについてこれから先も少しは考えて、興味を失わずにいられたらいいなと思いました。